

2019 年度第 1 学期終業式式辞

おはようございます。令和元年度 1 学期の終業式に際し、生徒の皆さんに三点申し上げます。

一点目は、「1 学期をしっかりと振り返って今後に活かしていこう」ということです。4 月の始業式では皆さんに、「穎明館の教育目標であるリーダーの育成。互いに切磋琢磨する、そして誇りある穎明館での学校生活を送ろう」と話しました。今のところどうでしょうか。先日、先生方の間で成績会議が開かれました。各教科、各学年の先生方から今学期の教育指導成果とともに反省点が報告されました。すでに皆さんの中には、三者面談等で学習面・行動面での課題を指摘された人もいることと思います。このあとの LHR の時間にクラスで、また個別に指導を受けることもあることでしょう。失敗は誰にでもあります。失敗経験を含めての Experience（経験）です。1 学期、うまくいかなかったことを謙虚に受け止めて、ぜひ今後の改善、成長に活かしてください。また、1 学期は 1 年生、2 年生、3 年生、4 年生は宿泊体験学習への取り組みがありました。私は 1 年生の菅平と 4 年生の USA に一部、参加しましたが、体験から生き生きと学んでいる皆さんの様子が大変印象に残っています。経験の大切さを述べたイギリスのことわざに、「学問なき経験は経験なき学問に勝る」がありますが、EMK のスピリットから皆さんには Experience（経験）も Knowledge（知識・学問）も求めたいと思います。体験学習の成果を風化させないように学び続けてください。Morality(道徳)に関しては、1 学期も時々、穎明館生の交通マナーの悪さについて、外部の方から連絡を受けることがありました。周囲に迷惑をかけないように心配りをお願いします。「穎明館の生徒は勉強をしっかりとやっているようだが、態度や行動もきちんとしている」という評判を皆さんでつくっていきましょう。よろしくお願いします。

二点目は、「夏休みに向けて心がけるべきこと、期待したいこと」です。まずは規則正しい生活習慣とともに、宿題はじめ学習を継続することです。やるべきことは早めに、計画的に進めていきましょう。また 1 年生から 5 年生は、合宿をはじめ、部活動への参加も結構ですが、常に文武両道、両立を念頭に自分自身を鍛え上げてください。5 年生は学校祭の準備で学校全体をリードする学年ですね。活躍を期待しています。他にも旅行や帰省の計画がある人や、ボランティア

活動などにチャレンジする人もいることでしょう。私が勧めたいのは、やはり読書です。私の経験を少し話します。高校時代、クラスで仲の良かったグループで、「あいつはすごいなあ、あいつにはかなわないなあ、あいつみたいになりたいなあ」と思っていたリーダー格の友達から一冊の本を紹介されました。井上靖の『夏草冬濤』という自伝的小説です。『しろばんば』は有名ですが、その続編です。彼の勧めで軽い気持ちで読み始めましたが、すっかり夢中になりました。登場人物たちの友人関係に憧れ、自分も小説の登場人物たちのようにキラキラとした魅力的な言葉を発するようになりたいと思って、学校に通う行き帰りの電車の中で、次から次へと本を読むようになったことが思い出されます。その後、私の仲の良かったそのグループでは読書が流行のようになって、リーダー格の彼を中心に読書会も行いました。意見を戦わせたことなどいい思い出です。いまでもその仲間たちとは付き合いが続いていて、私に影響を与えたその彼は、テレビ局で番組制作などにも関わっています。彼が制作した番組は欠かさずに見てきましたが、いつも刺激を受けています。学生時代の友人は宝物ですね。少し横道にそれましたが、読書についての至言を紹介します。例えば、イギリスの哲学者 F. ベーコンは「読書は充実した人間をつくり、談話は機転のきく人間をつくり、書くことは正確な人間をつくる」と言っています。また、「読書の目的は、自分の理想とする人間像を心の中に確立することである」とは、亀井勝一郎の言葉です。中学・高校生大切な時期に、読書を通じて人生や思想を学び、自分なりの生き方を模索してほしいと思います。

さて、6年生の皆さんは「勝負の夏」です。それぞれの目標と計画に基づいて、着実に受験勉強を進めることを期待します。学校での3週間の夏期講習、そして先生方を大いに活用してください。「焦らず、恐れず、怠らず」。先生方はもちろん、下級生・後輩も6年生皆さんの健闘を心より祈っています。

最後三点目は、生徒の皆さんへのメッセージです。今年3月、惜しまれつつメジャー現役引退をしたイチロー選手の言葉を贈ります。イチロー選手（選手と呼び続けますが）には2001年、シアトルマリナーズに移籍以来、穎明館では4年生のUSA体験学習のメジャーリーグ観戦、T-Mobile Park（旧セフコフィールド）で、10年以上毎年直接、声援を送ってきました。私もファンの一人です。イチロー選手には心に響く数多くの言葉がありますが、これは2004年に年間262安打世界記録を達成した時の言葉です。

「大きさや強さに対するあこがれを持ちすぎて、自分の可能性をつぶさないでほしい。自分の持っている能力を活かすことができれば、可能性が広がる。」

記録達成のときにアメリカのインタビュアーが次のように聞いたそうです。

「イチローさん、アメリカに来て、力の強い人や体の大きい人の中でこの記録は素晴らしいですね」と。するとイチロー選手は「ふざけないでください。自分の能力を活かせば幾らでも可能性があると思っていました」と返したそうです。インタビュアーは、「すみません、その言葉を日本の子供たちにください」とお願いしたときにイチロー選手が語りました。「大きさや強さに対するあこがれを持ちすぎて、自分の可能性をつぶさないでほしい。自分の持っている能力を活かすことができれば、可能性が広がる。」

私は、そして先生方は、「穎明館の生徒は、誰もが最高に伸びる可能性がある生徒だ」と思って教育に当たっています。先ほど「1学期を振り返って、反省を今後を活かしなさい」と言いましたが、皆さんは、できる子と比べて「自分はダメだ」と自信を失ってはいけません。皆さんそれぞれに能力があって、それを引き出すのが我々教師の役目でもあるのです。と言っている私も、先ほど申し上げた通り、高校時代は友達と比べて劣等感を味わってもしました。中学・高校時代は、人との比較から傷つきやすい、そういう時代でもあります。皆さんにはあくまでも自分を信じて、精いっぱい努力することの中から自分の能力、可能性を見つけ出してほしい。イチロー選手には「肩が強い、足が速い、強い心がある」という能力がありました。それがあるからイチロー選手は、可能性を信じて、あそこまで到達したのです。皆さんにも、皆さんそれぞれの、皆さんならではの能力、可能性があると先生方は信じています。自分自身でもその隠れた、潜在的な能力、可能性を探して、それを伸ばす努力を地道に重ねてほしいと切に思います。記録達成の時にイチロー選手はこうも言っています。

「小さいことを重ねることがとんでもないところに行くただ一つの道だ。」

「1学期を振り返って反省を今後を活かす」、「夏休みに向けて読書のすすめ」、「イチロー選手のメッセージ」と三点申し上げました。長い梅雨もありましたが、これから今年の夏も暑い日々が続きます。熱中症対策をはじめ健康管理、そして事故には十分気を付けて、2学期にまた元気に会いましょう。

以上、令和元年度1学期終業式の式辞といたします。